

GPSによる高齢者の外出行動の実態把握と外出を起点とした地域住環境に関する研究

現代人間学部 生活環境学科
人間文化研究科 生活福祉文化専攻
教授 竹原 広実

研究種目： 基盤研究(C)
研究期間： 2017年度～2020年度
研究分野： 衣・住生活学



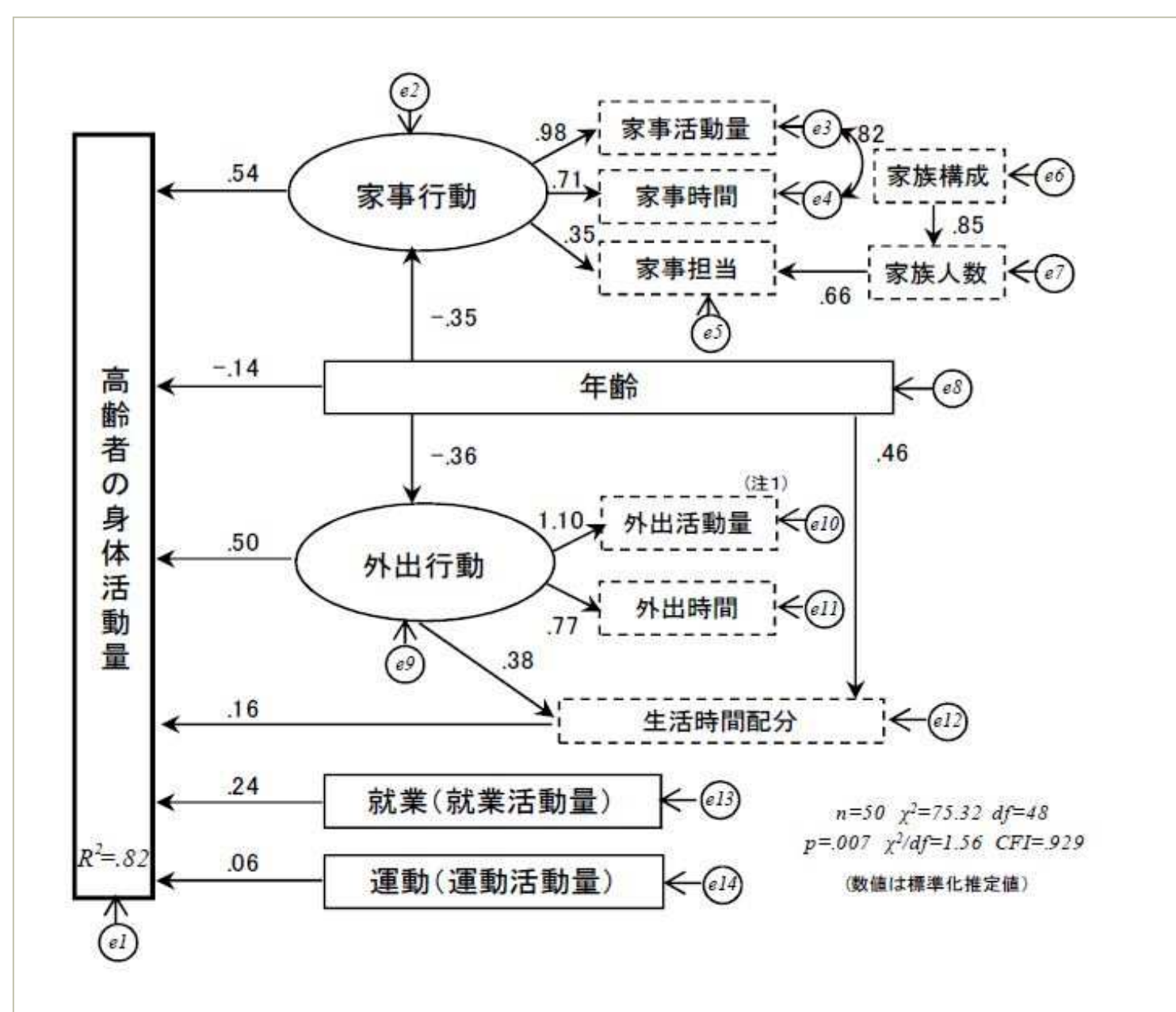
おもな論文・研究発表

- 1 心理と環境デザイン -感覚・知覚の実践-: 4.2章行動と環境計画(2)高齢女性の生活行動と身体活動量、技報堂出版、日本建築学会編、pp89～94、2015年
- 2 地域の生活利便性と高齢者の外出行動に関する実験、京都ノートルダム女子大学研究紀要第47号、pp13～20、2017年
- 3 居住者の和室に対する思い入れ及び要求と今後の和室の展望について、日本家政学会誌第68巻12号、pp674-686、2017年
- 4 京都市S地区における住環境評価と外出行動に関する調査、日本家政学会第71回大会研究発表要旨集、p106、2019年

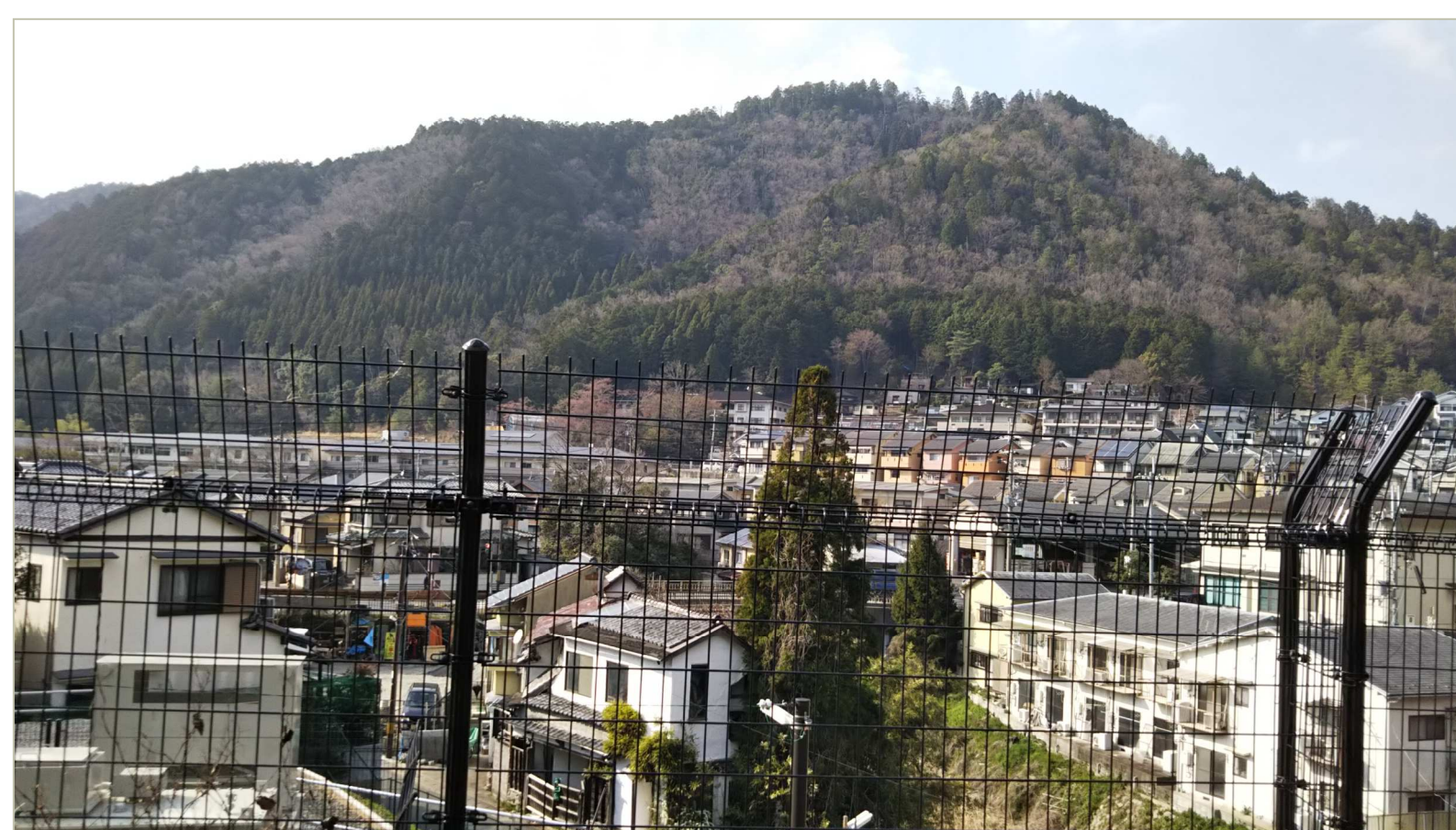


高齢者が地域で自立し社会との関わりをもち健やかに暮らすことができることは、活力に満ちた地域社会の実現につながる。そのためには個人の生活習慣としての身体活動の活発化と同時に、個人では解決できない生活環境の整備が重要である。人が生きることが取り巻く環境に大きく影響を受ける。本研究の目的は高齢者の身体活動量への寄与が大きい外出行動を取り上げ、外出を妨げない

地域の住環境のあり方を提言することである。地域住民を対象とした住環境評価調査を実施し、屋外において人と人との交流が豊かに展開する地域環境が実現する要因を質的側面から探る。またGPS端末を用いた実験により外出を量的に把握することで、外出行動を構造的に解明する。



総活動量と生活行動との因果関係(2009)



調査対象地域(京都市内)



京都ノートルダム女子大学
研究・情報推進課

電話：075(706)3789
FAX：075(706)3793

電子メール：kenkyu@notredame.ac.jp